

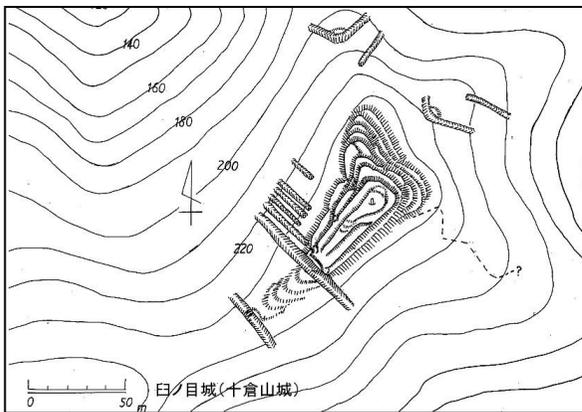
うす め じょう
No.41 白の目城 (別名 十倉山城)

舞鶴市宇森小字船越他

- ・遺構---曲輪、堀切、堅堀、畝状空堀群、土塁
- ・占地---山頂 ・標高---240m ・比高---220m
- ・遺跡地図番号---432

この城は白鳥峠南東に位置し、東方への展望がすぐれている。眼下には森城があり、森城の詰城として機能していたと考えられる。南西から延びた尾根先を二重の堀切で遮断し、長さ70m程のヒナ段に造成された曲輪が見られる。このような曲輪の造成方法は森城にも見られ、同一の城主が構築したものであろう。曲輪の西には畝状空堀群の敷設があり、この点でも森城と類似する。

近世の地誌では十倉山城主は不明とされている。「倉梯村史」は伝承として崎山某をあげているが詳細は不明としている。



け し だ に じょう
No.42 芥子谷城

舞鶴市宇行永小字芥子谷他

- ・遺構---曲輪 ・占地---尾根
- ・標高---80m ・比高---60m
- ・遺跡地図番号---439

この城は行永の龍勝寺の裏山に位置し、芥子谷団地の北方にあたる。現在、遺構は墓地の造成により破壊されており、神社が祀られている土塁囲み部分は破壊時に造られたもので、城館遺構とは関係ない。この為、城館の規模は全く不明である。

地元ではこの城を1517(永正14)年に延永氏が立て籠もって敗れた庫橋(倉橋)城であると信じる人が多い。これは、山麓の龍勝寺が丹後守護一色氏と関わりがあるためである。寺には一色詮範(あきのり)とされる木像がある。

近世地誌の中には、行永村の四つの古城のひとつとして「けし谷」をあげるものがあるが城主は不詳としている。また他の近世地誌には行永村龍勝寺の寺山の城に細川藤孝の家臣の上羽(或いは黒川)丹波又は一色太郎が居城したとされている。

